

(令和3年(2021年)9月28日 教育委員会会議 自由討議)
教育総務部 教育政策課

令和3年(2021年)9月

定例教育委員会会議 自由討議資料



(開催概要)

- | | | | |
|--------|------------------------------|----------|--------|
| 1 日時 | 令和3年(2021年)8月6日(金)午後2時～3時30分 | | |
| 2 出席者 | 教育長、教育委員(4名) | | |
| | 市立高等学校・中学校 | 保護者4名 | } 計33名 |
| | // | 学校評議員11名 | |
| | // | 教職員18名 | |
| 3 開催方法 | オンライン会議 | | |
| 4 次第 | (1) 開会 | | |
| | (2) 教育長挨拶 | | |
| | (3) グループに分かれて意見交換 | | |
| | (4) グループごとの意見交換内容発表 | | |
| | (5) 閉会 | | |

遠藤教育長グループ 意見交換概要

★グループ構成★

保護者2名（職業：教師）、学校評議員2名、教職員3名（教頭2名、教諭1名）

① 本日は話したいこと

（教職員 A（小学校教頭））

・先生方に早く帰るように仕向けるにはどのようにしたらいいか。

（教職員 B（中学校教頭））

・施設内学校という特殊な学校に勤務しており、定時退勤ができるようなスタイルを取っているため、そういったところを紹介したい。

（教職員 C（中学校））

・勤務時間や部活について話を聞きたい。

（学校評議員 A・小学校）

・PTA 会長歴もあり、先生方の環境が大変ということを見てきた。部活等について校長先生から話を聞いており、先生方が楽に仕事ができるよう手伝いたい。

（学校評議員 B・小学校）

・県の働き方改革にも携わっており、市の取組も参考にしたい。

（保護者 A・小学校）

・保護者として参加しているが、県立学校に勤務しており、具体的な手法を知りたい。

（保護者 B・中学校）

・保護者として参加しているが、私学に勤務しており参考にしたい。

② 学校の現状・実際に取り組んできた働き方改革の取組・改善事項等について

（教職員 A（小学校教頭））

・時間外勤務について、1 か月 45 時間を超えないように伝えているが、自分も含め 45 時間を超える職員はいる。以前より少なくなっているが、特に若手職員は効率よく仕事できていない。早く帰っても持ち帰って仕事をしている現状。

・本来 8 時 15 分が始業時間であるが、子どもたち朝早い時間に登校するため、全員ではないが教職員は 7 時 30 分前に出勤している。

・以前は部活の後に教材研究をしていたが、部活動が週 1 回の総合運動部に移行したことで、この部分は改善されている。

（教職員 B（中学校教頭））

・施設内学校であり、12 時 20 分～13 時 20 分の間に子どもたちが寮に帰る以外は、朝 8 時 20 分から午後 4 時 30 分まで子どもたちに付きっきりである。午後 4 時 30 分から 50 分ま

での 20 分間を事務整理や教材研究等に充て、午後 5 時 30 分には帰宅する。

- ・職員同士、交代で年休を取得することができている。

(教職員 C (中学校))

- ・7 時 30 分に学校を開けて、教頭をはじめ数名の教職員で登校する子どもたちを迎える。
- ・授業開始時間を早め、16 時に帰りの会が終わるようにしているが、部活等の対応があり、子どもたち一人ひとりと向き合う時間を取るのには厳しい。子どもたちの完全下校は 19 時頃で、その後自分の仕事に取りかかる状況である。
- ・担当教科に加え、道徳、学活や総合的な学習の時間、校務分掌への対応など業務が多岐に渡る。一度退任された先生方を再任し、活用ができればいいと思う。

③ 学校の状況を聞いての感想や質問

(学校評議員 A・小学校)

民間企業であれば、昼休みの 1 時間休憩など決まった時間に休めるが、先生たちにリラックスする時間はなさそうである。ゆっくりする時間をどう確保しているか。

(学校評議員 B・小学校)

外部に人材を求めていくにあたって、適材の確保、コンプライアンス等の研修の必要性など不安要素があると聞かすが、先生方は外部人材の活用は十分可能と考えているか。

(保護者 B・中学校)

中学校では、以前よりも先生方の業務は増えたと感じるか。

④ ③に対する回答

(教職員 A (小学校教頭))

- ・休憩時間は、子どもたちの昼休み時間に 35 分、退勤時間のちょっと前に 10 分あり、10 分間の方は取れるが、35 分の休憩時間は、あつてないようなもの。遊んでいる子どもたちの指導、けがをした子どもへの対応などあるため、なかなか休みは取れない。
- ・空き時間確保について、マンパワーを増やし、他の先生に授業を持ってもらうことが考えられ、35 人学級、さらに 30 人学級にしようという動きがある。学級あたりの子どもの人数を減らすのも良いが、40 人学級のまま、中学校のように副担任が一人いて、少し余裕を持って授業を行うのも働き方改革の一つの手段かなと他の教員と話したことはある。

(保護者 A・小学校)

・県立の中学部で働いており、担当教科の授業がない時間が 1 日で 1 時間くらいあり、その時間で授業の準備や事務処理等を行っている。また、余裕が持てるように、学年全体でできる授業等は輪番制で主となる先生を決めて、あとの先生は手伝うこととし、集団で実施するようにしている。心にも余裕を持つことができるように思う。

(教職員 C (中学校))

タブレットの導入により、その管理業務等が増えている。また、子どもが多様化しており、

それに伴い生徒や保護者の対応も増えている。一方で、校務分掌や学校行事は精選されており、減ってきている部分もある。

⑤ 学校の開閉について

(教職員 A (小学校教頭))

・地域、子ども、保護者にまとめて8時ぐらいに来てください、として変えるのは難しいと思う。勤務時間を一律にしないならば、シフト勤務で対応できると思う。

(教職員 C (小学校教頭))

・早出希望や遅出希望をする職員もいる。勤務時間自体を移動するシステムはない(※)と思うので、そこができればありがたいと思う。

(※) 令和元年度(2019年度)から「勤務時間の繰り上げ繰り下げ制度」導入。令和2年度(2020年度)本制度活用校数：31校

⑥ その他意見等

(教職員 B (中学校教頭))

・夏休みの日数を減らして、その分授業を行うのはどうか。そうすることによって、6時間授業を5時間授業にし、部活動の時間まで含めて17時に終わる。子どもも安全に下校ができ、先生たちも早めに帰ることができると思う。働いている保護者は夏休みも子どもが確実に昼食を摂っていると安心できる。子どもたちと関わる時間をできるだけ長くするにはこのようなことも考えられると思う。

⑦ 感想その他

(保護者 B・中学校)

・私学では労基署が入ったこともあり、働き方が変わってきているが、生徒がいる限り対応しなければならず、公立の先生方の働き方改革も難しいと思う。先生方に元気がないと子どもたちも楽しい学校生活は送れないと思う。できる限り勤務時間を減らして、リフレッシュできる時間が取れればと思う。

(保護者 A・小学校)

・各学校で働き方の工夫をされていると思った。私も、早く帰った分、結局授業準備は家でやるということもある。今後は、学校で出来る仕事は学校で完了させて、仕事の持ち帰りを減らすようにしたい。子育て世代の先生方も多いので、そういう先生方への配慮や支援しながら一緒に働いていけたらいいと思う。

(学校評議員 B・小学校)

・まずやはり意識改革が大事だと思う。先生方が、自分が休んでいいという意識を持つことがまず第一歩だと思う。そこからいい発想が出ると思う。

(教職員 C (中学校))

・私自身の働き方を考えていかなければならないと思った。先生方は子どもたちが好きでこの職業に就かれています。先生たちが元気に仕事することができると思います。

(教職員 B (中学校教頭))

・私は生徒との関わりを減らさずにどう働き方改革を進めていくかがとても重要だと思う。今日色々な先生方から話を聞いたことをできるだけ今後生かしていきたい。

(教職員 A (小学校教頭))

・仕事を快適にする、授業を快適にする、そして楽しく仕事ができるようにするには、逆に時間が必要。授業についての勉強、子どもを理解する勉強、学級経営の勉強をして、そして初めて効率的な時間でいろんな仕事ができるようになる。それを若い先生に理解してもらうのが今難しいと思っているところ。I C T環境のおかげで快適な環境にはなっており、後は少し勉強が必要かなと思う。

(学校評議員 A・小学校)

・先生方は自分の当然得られるはずの時間を削って仕事をされていると思う。すごくありがたい。一方、保護者たちには先生の思いや、学校の働き方改革が伝わっていないと思う。保護者がもっと頑張るべき部分まで先生に押しつけているように思う。例えば先程先生がおっしゃった夏休みの日数を減らしたらどうかという提案をどのように保護者に伝えていくべきか工夫すると思います。

出川教育委員グループ 意見交換概要

★グループ構成★

学校評議員 3 名、教職員 3 名（校長 1 名、教頭 1 名、教諭 1 名）

① 働き方改革のこれまでの取組、その効果等について

（教職員 A（中学校校長））

- ・職員の意識改革を目的に、年度当初に全職員に向け、働き方改革及び部活動に関する研修を実施した。
- ・本校の取組として、日課表見直しによる授業時間を前倒し、放課後の時間にゆとりを持たせたこと、部活動の実施時間を 90 分以内とし、水曜日は部活動なしの定時退勤日としたこと等が挙げられる。
- ・正規の勤務外の在校等時間について、全職員が 1 か月 45 時間を超えていない。
- ・今後も職員の意識改革、学校経営の色々業務の改善、そして環境整備、これらをしっかりとやっていく必要があると思う。

（教職員 B（小学校））

- ・余剰時数を減らし、月曜日を 6 時間から 5 時間授業にし、その後会議ができるようになり、先生方の仕事を少しは軽減できていると思う。また、余剰時数を減らして、2 学期初めも授業時数を少なめにして、子どもたちの宿題等を見る時間にも充てている。
- ・但し、新たな仕事が増え、仕事の総量は減らない状況にあり、退勤時間が早くなった等の効果は定かではない。

（教職員 C（小学校教頭））

- ・以前在籍した附属幼稚園で働き方改革を進める立場にあったため、先生たちに働き方改革についてお話しすることからスタートした。先生たちの意識は変わって、少し退勤時間も早くはなったものの、日々の業務が多忙なこともあり、目覚ましい改革はできなかった。
- ・小学校に配置され、働き方改革が進んでいるという印象。日課表の工夫もなされており、定時過ぎには退勤する先生もいる。午後 7 時ぐらいにはどの先生たちも帰るという意識がある。
- ・正規の勤務外の在校等時間について、自分は 80 時間超えている。朝は早く、夜は最後までいるという状況。他校でどういう工夫をされているのか伺いたい。

⇒ （教職員 A（中学校校長））

- ・自身の教頭 1 年目は 200 時間以上時間外勤務をし、過労死寸前だった経験から、働き方改革を進めなければならないと思っている。教頭先生には、1 日は学校全体の定時退庁日、また、1 日は校長で残るようにして、週に 2 日定時退庁を行っている。

② 働き方改革が進まない課題及び改善策について

(教職員B (小学校))

・本校職員と課題について話したが、それが何か見えない。減らせる業務がない、見つけられないところが課題ではないか。また、教職員の意識改革が必要。早く帰らなくては駄目だ、どこかで割り切らなければならないと思う。

⇒ (教職員A (中学校校長))

・働き方改革を整理して考えると、3つある。①業務の削減、②業務能率の向上、③環境整備。この3つを組織レベルと個人レベルの両方で考えなければならない。組織レベルでは、学校長が責任を持って判断する。例えば行事の削減など。個人レベルでは、業務の優先順位や効率化を考えてもらう。例えば子どもとつながる手段として「学級だより」を選択するのか、「生活ノート」のチェックを行うのかなど。

(教職員C (小学校教頭))

・先生は子どものためという思いで、仕事に対して責任感が強く、一生懸命である。一方で、業務の優先順位や方法を検討する必要があると、校長先生の話聞きながら思った。

・対応に時間を要するものが、子ども同士のトラブル等への対処である。このことへの対処にはマンパワーが必要である。子どもの状況が多様化する一方、先生の数が少ない。うちの学校では1年生担任に学習支援員がついており、子どもも落ち着いて過ごせていることが担任の先生の余裕にもつながっていると感じる。マンパワーの充実を進めてほしい。

(教職員A (中学校校長))

・マンパワーについては学校でどうしようもなく、教育委員会で支えていただきたい。

(教職員C (小学校教頭))

・心の面で課題を抱える子どももいることから、そういった課題へ対応する職員が一人でも多くいると助かる。S CやS S Wの来校頻度はそんなに多くないため、学校専属の人材があると、非常にありがたい。学校がうまく回っていくためにはマンパワーが必要と思う。

(教職員B (小学校))

・マンパワーのことで2つ提案したい。

学級支援員に関して、中学校の副担任のように学年に1人配置し、その学年の時間割作成や困っている子どもたちの学級支援も担ってもらうなどすれば、担任の負担感も解消されるのではないかな。

・教頭職を2人体制にすること。当校は大規模校なので教頭職が2人いるので教頭への相談もしやすい。職員で教頭の手伝いをすることは可能だが、教頭自身が相談できない部分もある。そういう意味で、教頭職が2人いたらいいと思う。教育委員会からも連絡事項も多い。マンパワーが必要である。

(教職員C (小学校教頭))

・教頭2人体制はありがたいが、校内の情報を集約する意味では1人でもいいかと思う。しかし、校内の戸締りの時間は変わらず、業務が減ったとしても正規の勤務外の在校等時間が

80時間を超えてしまう。

(教職員(中学校校長))

- ・校内の戸締りを交代制にしてはどうか。

③ 独自の働き方改革の取組について

(教職員A(中学校校長))

・当校の取組の一つで「多能工化」をやっている。これは一般企業などでも行われておりマルチスキル化とも言うもの。ある業務が忙しいとき、別の業務の人員を派遣するというやり方。色々な人が色々な業務を相互に補助することで全体的な負担を減らす。例えば2年生では、副担任が担任の代わりをする、ローテーションで学活を行うなどの対応。自分の業務以外も手伝えるように、各自のスキルを上げておく必要はあるが、そういう考え方を職員に広げ、お互いに助け合うやり方をしている。

④ 学校評議員の感想と協力できること等について

(学校評議員A・中学校)

- ・働き方改革の問題点として三つ挙げる。

一つは、先生方はまじめで教育熱心であり、憲法15条の奉仕の精神をはじめ様々な規制があり、その殻を破って何かしようとなると、校長の思い切った裁量がないとできないということ。職員の人数も決められている。

二つ目は長時間労働。地域型スポーツクラブや留守電の設置、学校閉庁日など時間短縮については教育委員会で取組を進めているが、全てカバーできているわけではない。例えば保護者から、夕方6時に来校すると言われれば、学校は断れない。

三つ目が、本当に大きな問題点。以前は、保護者と学校の目的が同じ方向だったが、今は対立する構図が非常に多くなっている。保護者対応などで心を病んでしまい、学校の先生をやっていく自信がなくなりましたと泣かれる先生も見てきた。原因として、外国にルーツを持つ生徒への対応、特性のある生徒に対するインクルーシブ的な教育の実施、いじめやSNS問題、児童虐待、ネグレクト、ヤングケアラーの問題まで出てきている。以前は、学校の先生は、恐らく8割以上は教えることが主だったと思うが、今は4割程度ではないかと。外から見ると、授業以外の対応というのがあまりにも多過ぎる。先生方が健全な心身を持って自分の授業を磨き、自信を持って人間性や創造性を高め、効果的な教育活動をするためには先生のメンタル面が最も重要と思われる。外から見るとそう思う。

(教職員A(中学校校長))

- ・文科省から学校の業務や教員の業務の仕分けが出されているので、そのあたりをしっかりとやっていきたいと思う。

(学校評議員A・中学校)

- ・学校外の問題でも、やはり学校が、最も保護者、子どもと接点を持つために学校に関わり

が求められる。ほかの関係機関が担当する業務について改善が図られなければ先生方は大変だろうと思う。

(学校評議員B・小学校)

・地域の人間としても、校長や教頭と繋がりがあるほうがいい。学校が地域行事等をシャットアウトすると、なかなか地域も一緒になってということができない。地域の立場からも、学校全体の風通しの面からもやはり校長先生の考えというのは一番響くと感じた。

・様々なところで教頭先生が忙しいという声が上がっている。戸締りについては誰が対応してもいいと思う。夕方校長、教頭のどちらかが残っていればいい。例えばフレックスタイムを採用するなど、会社でできることを学校でも取り組めないものか。

・働き方改革について、教科担任制の採用や、いじめ問題に関してはチームで取り組んでいくと聞く。先生から、もめごとが起きると対応に時間がかかると発言があり、もちろんわかる。このような事案への対応として働き方改革を進め、子どもと向き合う時間を確保されているのだと思う。例えば子どもにもめごとが起きないように、地域全体で子どもを守る、学校も保護者も地域もみんなで子どもたちを育てていくという気持ちがあると、もめごととも減るだろうし、もめごとが減れば先生たちの時間も確保でき、そういう協力であればしていけるかなと思う。

(学校評議員C・中学校)

・私の住む地域の場合は今年から小中一貫校になり、先生の時間外労働も大分減り、うまくいっている。隣に校長先生おられるので、校長先生からお話ししていただけてよろしいか。

(学校評議員Cの中学校の校長先生)

・何かあったときに相談できる関係を持ち、先生に何かあった時はチームで対応するのが一番の時間短縮になると思っている。いざという時、力を合わせられる関係が一番大事である。

⑤ 感想その他

(学校評議員A・中学校)

・先生が今日はきついなと思っても、担任を持っていると休めない。県と肥後銀行が働き方改革で連携するとの記事を見たが、外部講師を入れることなどもご一考いただきたい。

(教職員C (小学校教頭))

・働き方改革は子どもたちがよりよい人生を送っていくため、これからの社会のためということを目的にしていると思う。今日は、地域の方の温かい言葉を聞いて、とても心強いなど、ありがたいなと思った。

(教職員B (小学校))

・地域の方が温かく見守ってくださっていることに大変感謝しており、ありがたいことだと思う。学校がすること、地域にお願いすることについて、地域の方との関係で言えない校長先生もいるかと思うので、教育委員会のほうで音頭を取っていただけるとうれしい。

小屋松教育委員グループ 意見交換概

★グループ構成★

保護者 1 名、学校評議員 2 名、教職員 4 名（教頭 3 名、教諭 1 名）

① 「学校改革！教職員の時間創造プログラム」の取組で、学校現場で時間短縮につながった取組は何か。

（教職員A（小学校））

- ・今年度に入って正規の勤務外の在校等時間が45時間を超えた月が2回あった。時間を意識して働いているが、勤務時間内に仕事を終えることは難しい。
- ・校内での取組に日課の見直しがある。下校の時間を全体的に早め、総合運動部の活動時間も週2回それぞれ1時間とし、放課後の時間を有意義に使うことができるようになり、勤務時間内に部活動が終わることで教職員の負担も減少した。
- ・最も負担軽減につながったのは、通知表が年2回になったこと。夏休みに余裕を持ってそれまでの評価をし、9月末に前期の通知表を渡す予定。教員全てに好評である。

（教職員B（小学校教頭））

- ・本校も日課を見直している。3時半過ぎにはほとんどの子どもたちが帰宅し、その後先生たちは教材研究などに取り組むことができ、好評である。
- ・部活動も総合運動部しかなく、しかも活動は週1回で、非常に負担が少なくなっている。
- ・先生たちはほとんど午後7時までには退勤している。
- ・通知表が2回になり、よかったという声がたくさん出ている。
- ・地域の方による朝の見守りや読み聞かせ等のボランティアがあり、地域と連携に感謝している。
- ・留守番電話の導入により、夜遅い電話がなくなったことは非常にありがたい。
- ・欠席連絡をメールシステムによって受けるようになったことも良かった。
- ・コロナ禍で、オンライン研修が多くなったが、研修会場まで行く時間が省けるという点は良かったと思う。

（教職員C（小学校教頭））

- ・本校も日課を見直している。放課後の時間ができるだけ多く取れるよう組んである。
- ・本校はまだ以前からの部活動がある。1時間程度で実施しているが、5時～5時半までかかる。但し、大規模校で全職員45人で分担しているため、負担感はなくなっている。
- ・本校では、職員みんなで午後7時までには退庁しようと声をかけあっている。
- ・午後7時退庁ができないのが教頭職の自分。先生たちからの相談も含め、仕事が終わらない。率先し午後7時までの退庁を心がけているが、できた日は少なく反省している。

（教職員D（中学校教頭））

- ・小学校と比べ、中学校は帰る時間が大きく違うと感じる。

・取組として、会議等を減らしていることがあげられる。必要な情報はタブレット等にアップし共有している。朝会も実施せず、週に2回だけ夕方に夕会を設け、口頭で伝えるべきことを伝えている。しかし、この方法に職員がまだ慣れておらず、全体に伝達できていない場合もあり、業務のスリム化と周知の効果について悩む。校内でのICTの活用は劇的に進み、先生たちの技術も向上しているが、タブレットや校務支援システムにあげられる多くの情報を忙しい日常業務の中で先生たちが確認する時間は限られ、行き届く心配である。

・昨年度はコロナ禍により中体連は中止となり、1学期に在校時間が遅くなる先生は多くなかった。今年は中体連の大会が6月末から分散的に始まり、中体連で達成感を得られるように安全に部活動を実施し、土曜や日曜には試合を行う一方、授業づくり、テストの採点や評価の整理、個別の対応等もあり、在校時間は昨年度に比べずいぶん長くなった。

・部活による体育館の使用が2部制になっており、授業が終わってすぐに1つの部活が入り、その後交代でまたもう一つの部活が入る。部活の最終終了は6時半で、完全下校が終わるのが6時45分。7時までに片付けて帰宅できる先生はなかなかいない。

・本校は1学期も通知表を出す。夏休みに実施する3年生の三者面談にある程度の指標となるものがあつたほうがいいとの判断によるもの。

・子どものための頑張りどころはどこか、減らさなければならない業務は何か、と悩む。生徒や保護者のために仕事をするのが目標であり、手を抜いてはいけない。どこを削減するのか、学校だけでは決められず、難しいと感じる。

② 学校の実態を聞いての学校評議員及び保護者の感想等

(学校評議員A・小学校)

・中学校のPTA会長でもあり、学校と地域との連携を大事にしている。この連携の中が先生方の負担になっていないか。例えば、今夏休みでPTA主催の夜間パトロールを行っているが、先生方は一度退庁して、再び学校に来ていただいている状況。

・部活動に関して、今小学校は部活動がほとんど総合型に変わり、部活動がほぼない状況。小学校と中学校の教職員の日頃の忙しさはその点でも変わるかと思う。

・先生方に少しでも負担がかからないように、一保護者として向き合っていければと思う。

(学校評議員B・中学校)

・私も8年ほど前、中学校のPTA会長をしていた。その頃に比べると先生方が少し早めに帰られるようになったという印象を受けている。

・私の校区の小学校では、昨年から総合型クラブを立ち上げ、その手伝いをしているが、先生方には子どもたちと向き合う時間ができたと聞く。総合型を活用していただきたい。

・総合型クラブの夜間を手伝っているが、小学校よりも中学校の先生方の帰りが遅い。

・私の地域では、地域と絡んだ学校行事も多くあり、先生方は一生懸命時間をつくって行事に取り組まれている。少しでも先生の負担が減り、子どもも先生方も元気でいてほしい。

(保護者・中学校)

- ・小学校では担任制が先生たちにシビアな環境をつくっている。1限目から6限目まで隙間がない。専科の先生、専任の先生を導入し、1日のうち1時間でも2時間でも子どもたちから離れたところで仕事をする時間を確保できると小学校の先生は楽になるのではないかな。
- ・中学校では、部活動が一番大きな負担なのではないか。先日、我が子が夏休み中の部活に朝の7時に学校に行き、帰宅が13時過ぎ。部活動で6時間以上も学校にいた。練習に行ったのだが、この暑さの中、6時間も相手する先生は大変だろうと思う。一方、部活動の時間は決まっていると思う。なぜ決まりを守らないのか。
- ・部活に対する保護者の熱量には温度差があり、部活動に期待する保護者、そこまでしなくてもという保護者がいる。先生たちは一生懸命に指導してくださるが、頑張りどころと頑張る時間を考えると先生たちも楽になる。部活動中の事故や熱中症等の危険性を回避するためにも、決められたことはきちんと守ることが大事である。

③ 部活動を将来的には外部委託をするアイデアもあるが、部活に対する保護者の温度差等についてどのように考えるか

(教職員A (小学校))

- ・部活については、働き方改革のプロジェクト会議でも大きく取り上げている。小中学校で部活動の指導や運営を行う団体を新しく設置する検討を行う。特に中学校については、部活動指導員の拡充、部活動数の適正化を進め負担軽減を図る取組が決まっている。
- ・今現在の実態として、試合前ということで朝練が行われていると聞く。
- ・部活動指針について、実際のところ、部活動指針が守られているか疑問。新しい団体をつくる前に、中学校での部活においては部活動指針をしっかり守ることが大切である。

(教職員B (小学校教頭))

- ・本校の総合運動部は、職員全員が交代で見えており、「早く帰れるようになった」という声を聞く。抜本的に見直し、新たな組織に部活動を移行すると、中学校でも違ってくると思う。

(教職員C (小学校教頭))

- ・本校は以前からの部活がまだある。すぐになくすのは難しく、今後3年間で部活からクラブチーム等への移行を検討する。保護者や児童にそこを考えて入部してほしいと紹介した。
- ・以前あった野球部はクラブチーム化をしており、サッカー部もその方向で検討中。音楽部も勤務時間内で終了するように活動内容の変更を検討中である。

(教職員D (中学校教頭))

- ・部活で6時間学校にいたというお話について。現在、本校では朝7時半から中体連の陸上の練習を行っている。陸上は学校からの参加で、様々な部活から運動が得意な生徒が集まり、朝の涼しい時間に練習をしている。その後すぐに部活が始まらない生徒がいる場合、先生は夏休みの空教室で、クーラーをつけて宿題を見てあげることもある。本校でも、朝7時に行ったのに12時過ぎても帰ってこない、と思われているご家庭があるかもしれない。
- ・子どものためと思うと、大変なことをいとわない。ゆっくり関わるのが先生たちの喜び

でもあり、大変なことではなくなるのかもしれない。また、オリンピックを見て感動する気持ちと一緒に、部活動で得られるものが生徒だけでなく、それに携わる先生たちにもある。

- ・本校は部活が多く、職員全員に割り当てて基本は2人制だが、2人つけない部活もある。
- ・部活動指針については守っている。ホームページにも掲載しており、基準以上のことは行わないように伝えており、先生方も考えて部活動を行っている。

④ 地域や家庭で考えなくてはならないこと、手伝えること等について

(学校評議員A・小学校)

・先生方の負担を少しでも減らすために何をすべきか模索中である。何がいいのかと考えていき、今後実行したい。

・部活について1つ懸念がある。部活動に対して子どもたちに温度差があることである。3年前、小学校の部活動がなくなることになり、自分が総合型スポーツクラブのコーチをしていたため、そこを子どもたちの受け皿とした。その中で運動の一環としてバスケットをしている子もいれば、試合に勝ちたい、本気でうまくなりたい子もいて温度差があった。私のスポーツクラブは、勝つことより楽しくみんなとバスケットをすることを目的にしており、勝つ目的だった子はやめてしまった。部活動がなくなったあとの受皿の在り方についても考えるべき。

(学校評議員B・中学校)

・私も部活動について子どもたちの温度差はあると思う。体力づくりで参加する子、勝ち残りたいと思う子もいて、この温度差はこれからの課題だと思う。

・九州大会などに出場する部活動の子どもたちは練習時間が長くなり、先生たちの負担が増えるので、その辺は地域としても何かお手伝いができることがあればと話し合ってみたい。

(保護者・中学校)

・部活動については、スポーツ教育の機会の提供ということで、大きな意味があると思う。部活動の縮小は、子どもたちがその機会を失うことにつながる可能性もある。地域で施設の管理や指導等を行う形でスポーツ教育の機会を確保し、必ずしも先生が関わらなくてもいいという形態とし、先生の負担を軽くする方法もあると思う。

西山教育委員グループ 意見交換概要

★グループ構成★

学校評議員2名、教職員4名（教頭2名、教諭2名）

①働き方改革に対する意見

（教職員A（小学校教頭））

- ・教頭の勤務時間は非常に長いと言われており、自分が教頭1年目のときは夏休や年休はほとんど取得することが出来なかった。
- ・教育委員会が策定した時間創造プログラムの取組が始まり、学校閉庁日が設定され夏休を全消化できたり、年休も取得できるようになった。
- ・これまでは、子どもたちのために、と長時間勤務が常態化していたが、今は限られた時間の中でいかに成果を上げるのか、そのために必要なことは何かを考え、試行錯誤を重ねながら業務にあたっている。

（教職員B（中学校教頭））

- ・時間創造プログラムに掲げる目標達成に向け、学校現場においてもその効果が出てきていると思う。この取組を、第2期のプログラムのつなげていくことが大事。
- ・事務事業の精選のほか、地域や関係機関の力も借りながら業務に当たっていくことが必要であり、組織として業務計画を立案、遂行していく必要がある。

（教職員C・小学校）

- ・時間創造プログラムの取組が現場にも浸透してきており、職員も7時過ぎには退勤するなど以前に比べ職員室の雰囲気も変わった。
- ・時間創造プログラムには数値目標が掲げているが、数値には出ない精神的な充足感や満足度の向上も働き方改革に必要な要素であると思う。

（教職員D・高校）

- ・時間創造プログラムの内容は、ほとんどが小中学校を前提にしたものばかりで、高校のことに触れられていないと感じている。
- ・教育委員会には、現場の教職員の声、話を聞く機会も設けてほしい。例えば、学校で打刻処理がうまくいかないのはなぜか、と議論されていたが、そのような話は学校長ではなく現場の教職員に話を聞くのが最も簡単である。
- ・高校入試業務を教員の業務から外してほしい。

（学校評議員A・小学校）

- ・学校新聞を統一化するなど、業務を減らす余地はあると思うが、そうすると先生個々の特色がなくなるのでは、との声もある。また、会議をオンラインで実施するなど、評議員として学校側とも協議しながら、働き方改革につながる取組が出来ればと思う。

・先生たちの負担を少なくすることで子どもたちとの触れ合いの時間を確保してもらえたらいいと思う。

(学校評議員 B・小学校)

・時間創造プログラムを見て、実行と確認のプロセスを確実に実施していくことでこの計画はかなりの成果を挙げられるのではないかと感じた。

・時間創造プログラムの内容について、小中学校と高校それぞれに共通する部分と違う部分がある。高校の先生からの話もあったが、それぞれの学校の状況に応じた対応が必要と思う。

・学校は校区の自治会などと連携した取組が出来ているのか聞きたい。学校が忙しいのもわかるが、地域の自治会に顔を出すなどしないと協力は得られないのではないかな。自分たちも応援したい気持ちはある。

② 地域との連携について

(教職員 C・小学校)

・人格形成ということで考えれば、学校だけでなく地域も一体となって子どもを育てることが大事であり、そのことを学校と地域、保護者が共通理解を持たなければならない。そういう部分で、地域との連携は大事にしていく必要があると思う。

③ 時間創造プログラムの取組の現状について

(教職員 C・小学校)

・学校の中で改善できる部分はまだあると思う。また、システム化により効率化された部分もあるが、そのシステムの仕様や使い勝手などで改善できる部分もあると感じている。

・中学校に関しては部活動が大きな課題であり、部活動の改革が大きなポイントになると思う。時間外勤務を月 4 5 時間以内とするには、部活動があると難しいので、国、県、市教委が主導する大きな改革が必要だと思う。

(教職員 D・高校)

・時間創造プログラムが小中学校中心のため、高校では対応が進んでいないのが現状。例えば、日課にしても高校では放課後に課外授業がある、夕方には（受験や就職のための）面接指導への対応なども必要である。もっと高校の現場の教職員の話を聞いてほしい。

(学校評議員 B・小学校)

・部活動について、小学校の部活動は本当に必要なのか疑問である。20 年前、30 年前は習い事なども充実しておらず、放課後の過ごし方として部活動は有意義だった。現在は勉強やスポーツなどの習い事が充実しており、放課後の過ごし方も多様化している。また、中学校の部活動は全て外部委託する、学校の先生がやりたい場合は、外部委託経由で関わってもら、などの対策が必要だと思う。

・市の体育協会と連携するなど、抜本的な改革が必要。教育委員会として、部活動は切る、代わりに体育協会など地域に任せる、など大胆な発想の転換が必要ではないか。

③ 感想、言い足りなかったこと等

(教職員 B (中学校教頭))

・今の学校では、地域の自治会の会合に参加させてもらうなど、いい関係が築けていると思う。管理職の立場から、できることを率先して対応し、示してくことで働き方改革につなげていきたい。

・学校だけでは対応が難しい部分もある。例えば、システムの話だが、出勤打刻の際には2台のパソコンで50人程度が打刻処理を行う必要がある。打刻の際には個人ごとにログインをする必要があるため非常に時間がかかり、加えてパソコンの立ち上がりが遅いこともある。こういう部分も含め改善していく必要がある。

(教職員 C・小学校)

・時間創造プログラムについて、その内容をしっかり理解している職員は少ないのでは、と感じた。また、保護者や地域の方に対する周知も不足していると思った。このプログラムの趣旨を理解し、自分たちなりに工夫していくことが必要と感じた。

・職員同士あるいは学校間で良い取組事例を共有することが大事だと思う。

(教職員 D・高校)

・高校は小中学校と異なり、特殊な課題が多く、そのことを伝える仕組みが必要と感じた。市立高校改革が進む中で、市教委から多くの仕事の下りてきており、この対応は現場の教職員が中心に対応している状況。教育委員会には、もっと現場の教職員の話を聞いてほしい。

(学校評議員 A・小学校)

・自治会との繋がりが大事であり、学校、地域、家庭が一つにならないとうまくいかないのではないか。保護者に対しても、学校での働き方改革の取組を広めていきたいし、そのことで得られる気づきや意見も保護者からたくさん寄せてほしい。保護者が学校に直接言いにくい場合はPTAなどを通じてでも伝えてもらえるよう、話をしていきたい。

・自分の校区では、安心メールの登録を自治会にも協力いただき、地域全体で学校の情報共有を図っている。

(学校評議員 B・小学校)

・小学校では、学校経営重点計画を年に1回作成しており、計画の中では働き方改革の項目が入っている。この内容を学校内でも周知徹底してほしい。様々な業務について、以前のやり方を見直し、軽減すべきは軽減していくことを進めていってほしい。

苫野教育委員グループ 意見交換概要

★グループ構成★

保護者 1 名、学校評議員 2 名、教職員 4 名（教頭 2 名、教諭 2 名）、

① 働き方改革の現状等について

（教職員A（小学校））

- ・今、本校の現状として、正規の勤務外の在校等時間が 1 か月当たり 45 時間を超えた職員はいなかったが、年間 3 6 0 時間を超えた教員は約 4 1 % いる。
- ・効果的な取組は一部教科担任制である。高学年で理科専科、音楽専科、算数専科がおり、空き時間が生まれ、高学年の先生はとても効果的であると思っている。
- ・今大変なのは中学年の先生である。3 年生から教科数も増えて、3 年担任に空き時間はなく週 2 8 時間担当している。一部教科担任制を中学年から取り入れると、もっと先生方が働きやすくなると思う。

（教職員B（中学校教頭））

- ・本校にはノー部活動デーがある。日曜日以外は毎日部活を盛んに行っていたが、毎週水曜日をノー部活動デーに設定し、その日職員は帰りの会が終わって自分の仕事が済んだら定時退勤するよう取り組んでいる。ほぼ定時退勤できている。
- ・勤務時間が長くないように日課を変えている。週に 2 日間は朝自習をなくし、週に 2 日間は掃除をなくして、2 0 分間日課を繰り上げ、早めに部活動に取りかかり早めにやめるよう取り組んでいる。しかし部活動後から翌日の準備等をされる先生があり課題である。

（教職員C（小学校））

- ・今年度から通知表が年に 2 回になったことは画期的だった。個人の成績データは持ち帰れないため、これまでは、成績に関する業務で土曜、日曜も出勤する先生がたくさんいた。今は夏季休業中に準備ができ、教育委員会でも考えてもらい、変わってきたと感じる。
- ・発表会や研究発表会など行事の準備等で集中的に時間外勤務が多くなるのが小学校の現状である。

（教職員D（小学校教頭））

- ・朝自習をなくし、休み時間を 5 分にする「午前中 5 時間日課」を行っている。それで随分変わってきたと感じている。この日課では、低学年は大体 2 時に帰り、高学年は大体 3 時ぐらいに帰る。子どもたちはその後、学校に遊びに来たり、個別な学習等で学校に残ったり、教育相談もできている。教職員は放課後から勤務終了まで約 2 時間あり、事務整理等もできる。教職員、子どもの両方に好評である。
- ・平成 3 0 年度の正規の勤務外の在校等時間は 1 か月当たり平均 4 0 時間だったが、昨年、一昨年は約 2 5 時間で、1 5 時間ぐらい減らすことができている。

② 教頭業務の忙しさについて

(教職員D (小学校教頭))

- ・どんなに頑張っても、ほかの教職員よりも在校時間はどうしても長くなってしまう。様々な突発的な対応は仕方がないことである。
- ・自分の退勤の時間を早めることができている。昨年度の時間創造プロジェクトで、当番で施錠するという提案があり、取り組んだためである。夏休みは教職員それぞれに当番の日があり、その日は当番で施錠等を行う。その流れで2学期からも1週間ごとに各学年に当番制で施錠をお願いした。また、職員は、自分が最後まで残ることには非常に抵抗があるので、職員同士が声をかけ合って早く帰るという状況が全体的に見られるようになった。

(教職員B (中学校教頭))

- ・様々な準備や作業をしている先生の帰宅を待ち、遅くなってきて、もう帰りましょうかと声掛けをすると、やはり施錠は避けたいところがあるようで、帰りますとなる。帰宅が遅くなりがちな先生には、ある程度時間を見て声かけしていくのは大事だと思う。

③ 学校評議員の意見 (その1)

(学校評議員A・中学校)

- ・学校評議員として学校へ行き、授業等を見て、自分の頃の授業に比べて先生方が色々考えられて授業をされていると感じる。昔は教室での座学だけだったが、例えば理科の授業では教室から出て実際に観察する授業があった。準備をしっかりされており、地域住民としてありがたいと思う。
- ・一方、一服される時間があるのかなと思う。冒頭で先生の一日が紹介されたが、休憩する時間はどこにあるのか。そこで、先生方が10分か15分ぐらいはぼうっとしていいという雰囲気と、休憩するための物理的な部屋を是非確保していただければと思う。

④ 先生の休憩時間について

(教職員B (中学校教頭))

- ・中学校には空き時間があるが、休憩室はないため、お茶を飲むときは職員室等である。
- ・小中一貫校であり、小学校を見ていると、昼間はトイレに行く時間もないようだ。放課後の時間は中学校に比べるとあるようだが。

(教職員A (小学校))

- ・私は専科を担当しているが、休み時間は次のクラスの子どもたちを早めに受け入れることもあり、お茶を飲む時間は実際ない。自分には準備室があるので、そこでちょっと休憩をとる程度はできるが、担任の先生方は業間の20分の休み時間と昼休みに少しお茶を飲む程度の時間しか取れないと思う。また、専科の場合は空き時間があるが、現在、不登校支援の対応等もその空き時間で行っており、少しきつい状況になっている。

(教職員C (小学校))

・私は特別支援学級の担任で、子どもにずっとついておく必要があり、まずお茶は飲めない。子どもが帰るまでは職員室にも帰れない。大抵の先生方がそうで、特に低学年の先生方は子どもから目が離せず、ずっとついておられ、給食もいつ食べられたか分からないくらいさっと食べ、空いた時間に連絡帳を書く、ノートを見るなどされている。消化不良が心配である。また、トイレにもなかなか行けないというのが現実である。

⑤ 学校評議員の意見（その２）

（学校評議員B・小学校）

・これまで保護者やPTAという立場で学校を見てきて、授業の準備というのは非常に大変だと思っている。教えなければいけないことはたくさんあり、先生方の思いも伝えなければならない。その時間をどのように確保されているのか。

・経験が増えれば以前の経験が生かせると思うが、新任の先生方は、授業をしながら、自分のパターンをつかむために努力が必要ではないかと。自分なりに努力する時間はどのように確保されているのか。また、学校側はどのように若い先生をフォローされているのか。

・低学年は14時ぐらい、高学年は15時ぐらいで授業が終わって、それから自由な時間があるということだった。高学年の先生方の負担は大きく、専科の先生を置くのは有効。より広げていったほうがいい。

・学校で休憩時間は規定どおりとれているのか。学校現場でのコンプライアンスは、現場の先生方の努力だけではなかなか達成し得ない部分もあるので、教育委員会で制度的に行っていただいたほうがいいと思う。

・教育委員会から、例えば正規の勤務外の在校等時間1か月あたり45時間以上の職員が減った等の報告があるが、仕事を持ち帰ってはいないか。プライバシーの関係上そんなことはできないかもしれないが、家に持ち帰っている現状はないのか。

・本日先生方からお話を聞き、日課の組み替え等、学校の様々な努力を感じる。また、通知表の2期制は多分結構有効だったと思う。教育委員会側からこの会の初めに色々な施策の紹介があったが、教育委員会の施策が学校にきちんと下ろされて、それが本当に先生方のためになっているのか、第三者の立場から見ると、本当に有効に機能しているのか気になる。

⑥ 若手の先生へのフォローについて

（教職員D（小学校教頭））

・同じ学年を組むときにできるだけ若い先生とベテランと言われるような教員を組むようにしている。その他生徒指導等でも、できるだけベテランと若手を組むようにしている。そうすることでベテランから適宜アドバイスをし、OJTとなる。

⑦ 法律遵守について

（教職員D（小学校教頭））

・休憩時間の確保については、昼休みという時間を給食後に35分まで取っている。そして、退勤時間前の10分間を休憩時間とし、45分を2つに分けて取っているところである。しっかり休憩が取れているとは言えず、昼に学校を離れるという職員は皆無であり、昼間の用事は年休を取って済ませている。

⑧ 仕事の持ち帰りについて

(教職員B (中学校教頭))

・学校ではUSBが使えなくなり、データが持ち出せなくなったので、家に持ち帰る先生はほぼないと思う。子どもたちのノート等はほぼ学校で見られており、ノートを車に積み込んで持って帰る先生も見かけない。ただ、OneDrive等で自宅のパソコンと共有すれば仕事ができるかもしれないが、小規模校ということもあり、持ち帰りはないように思う。

⑨ 働き方改革実現のために学校現場ではなく行政でしかできないことはあるか。

(教職員D (小学校教頭))

・年次有給休暇の取得が難しい。現場で担任を持っていればなおさら取りにくい。子どもが毎日登校する状況で、担任が平日に計画的に休むということは難しい。年間16日は年休を取りなさいという教育委員会の目標を見たときに、そのための措置は何かあるのか、と非常に疑問を持った。夏季休業中は、夏季休暇が5日間あり、それ以上に年休も取ることは難しい。具体的な措置としては、人員を増やすしかないと思う。

⑩ 全員担任制や学年担任制は年休取得に有効か。

(教職員A (小学校))

・私も人的な措置が必要だと考えている。担任をしていると年休取得は難しく、中学年以上であれば、中学校のように副担任の先生がいるとうまくいくのではないかな。

⑪ 保護者の意見

(保護者・中学校)

・先生たちの働き方の改善は急務だと思うが、毎年同じようにたくさんの行事が行われており、それが例年どおり行事をやればよいという状況になっていないか。

・授業参観について。普段の授業を保護者が見るということだと思うが、授業参観のための授業になってないか。先生が授業参観のためにいつもと違ったことを試行錯誤して準備しているとすると、普段の授業を見ることにならない。毎日が授業参観、保護者が見に行きたいと思った日が授業参観といったスタンスでいてほしい。先生が授業参観を成功させようと思っているならば、それも負担になると思う。

・小学4年生は2分の1成人式がある。私は子ども2人の2分の1成人式を見て、はるかに次男が受けた2分の1成人式よりも末っ子の2分の1成人式のほうがグレードアップして

いた。素晴らしいと思う一方、どれほど時間を割いたのかなと思った。前日は徹夜だったという先生もあり、その必要はあるのか。そもそも必要な行事であるか話し合ってほしい。

- ・部活に関して。私の出身地の小学校では部活がなかった。こちらに引っ越して小学校に部活があることに衝撃を受けた。小学校で部活が必要か疑問に思う。

- ・家庭訪問も必要なのか。保護者も学校も毎年しているから家庭訪問をするという考え方になっている。家庭訪問で10～15分の話をする時間をもっと他の時間に充てられないか。

- ・先程、先生方がほっとする空間がないという話があったが、職員室自体をほっとできる場にしてほしいと思う。職員室が緊張で張り詰めているような空気感の場所になっているとしたら、それをもっと和らげられるようソファを置いてみるとか自販機を置いてみるとか、コーヒーを飲めるようなゆとりがある職員室の空間づくりも大切ではないかと思う。

⑫ 保護者の意見へのコメント

(教職員D (小学校教頭))

- ・例年どおりの行事を見直すことは非常に大事なことだと思った。コロナで実際様々な見直しを行っており、行事を根本的に見直すことは大事なことだと感じている。運動会の時短をはじめ、今後見直しが進んでいくと思う。

⑬ 感想、意見、言い足りなかったこと等

(教職員B (中学校教頭))

- ・やはりコロナ禍になって行事の有り様は随分変わったと思う。今後は、何を選択して何に集中していくのか、選択と集中がとても大事になってくると思っている。学校現場では行事を精選しており、なくした行事もたくさんある。おそらく、どこの学校も行っていると思う。

(教職員C (小学校))

- ・各学校で工夫されていることが色々ある。それを共有できたらと思う。教育委員会でその場をうまくコーディネートしていただくと、もっと広がると思う。

(教職員D (小学校教頭))

- ・教職員の仕事はブラックだと言われている。教育実習生等が来て実際に体験して帰るときに、そうではなかったと言われるような職場づくりを目指している。希望を持って、先生たちが生き生きと働いているという姿を見せられるような職場をつくりたいと考えている。

⑭ オンライン授業など、新しいチャレンジに対する学校現場の感想は？

(教職員A (小学校))

- ・タブレットの活用について、やはり若者は堪能で50代の先生方は苦勞されている現状。
- ・保護者の読み聞かせのボランティア活動を、タブレットのロイロノートを使ってやり続けることができ、そういう効果的な面もあった。
- ・自分も中堅の立場だが、ついていくしかないと思死にやっている。